

もしも、今カスリーン台風が来て堤防が壊れたら…

もし、70年前と同じカスリーン台風がきて、同じ埼玉県加須市(旧東村)新川通の堤防が壊れて水があふれたら、当時より人口も守るべき財産もたくさん増えているし、安全で快適な生活にすっかり慣れてしまっているので、想像も出来ない大混乱になります。

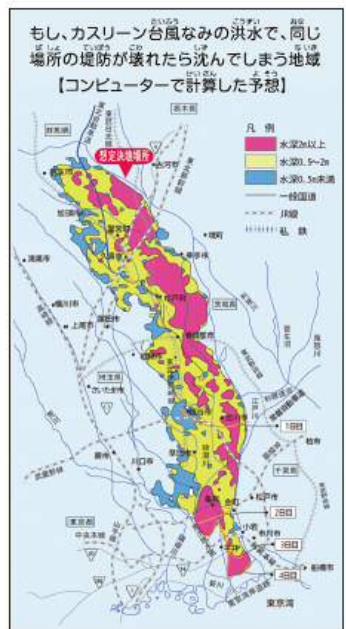
たと いは お 来る そ つが て ど  
例え ば、今 では 当たり前の 様に 使っている 鉄道  
や 道路、上下水道、ガス、電気、電話、インターネット  
トなど、ありとあらゆるもののが いつも通りに 使えな  
くなったり、手に入らなくなります。食べ物もすぐ  
に 底をつくでしょう。病院も いつも通りには 診察  
は 出来ないで しょ。命の 危険にさらされます。

もし、利根川の堤防が壊れて水があふれ出したら、どの位の時間で水がやって来て、どの位の水の深さになってしまふのか、コンピューターで計算した結果をみんなもインターネットで調べることができます。

「利根川上流はんらんシミュレーション」と検索して、みんなの住んでいる家の近くがどうなってしまうのか、調べてみて下さい。  
命を守るためにには、洪水がやって来る前に安全な避難所に逃げることが大事なのです。

こう ずい き じ ふん せ ひく みず ひか に  
洪水が来ても自分の背より低い水の深さなら、逃げられる!?

流れている水の力は、みんなが思っているよりもすごく強いのです。ひざより低い水の深さでも、きっと、水中を歩くことは出来ないでしょう。それに、洪水は、輪廻<sup>りんりく</sup>な水が流れてくれるわけではなくて、色々な汚い物、危険な物が一緒に流れてきます。洪水の中を歩いてチョットのケガをしただけでも、破傷風<sup>ぱきょうふう</sup>(とっても怖い病氣)に罹<sup>なま</sup>ったら死んでしまうこともあるんです。だから、洪水がやって来る前に安全な避難<sup>ひなん</sup>所に逃げることが大事なのです。



**安全に避難するためにも、色々な情報を集めておこう。**

### ● テレビ(データ放送)で確認しよう

TVのリモコンの「dボタン」を押して、メニューの「地域の防災・生活情報」をえらんだあと、  
「河川水位・雨量情報」を選んでみよう



### ● 携帯電話やパソコンで確認しよう

- ① PC版 <http://www.river.go.jp/>  
 ② スマートフォン版 <http://www.river.go.jp/s/>  
 ③ 携帯版 <http://i.river.go.jp/>



市役所・区役所・町役場では、洪水が起きたときの水の深さや避難場所などが一目でわかる「洪水ハザードマップ」を見せてくれます。インターネットでも見ることができますので、自分の避難場所を確認しておくことが、命を守る事につながります。

避難所に避難しても、はじめの頃は、食べ物・飲み物や色々な品物が足りていないかもしれません。非常用持ち出し袋を準備しておくことも大事です。



いつかまた来る。70年前に本当にあった

# カスリーン台風による 大雨



国土交通省 関東地方整備局  
利根川上流河川事務所

## カスリーン台風ってどんな台風だったの？



カスリーン台風は、今から70年前の1947年9月にみんなで住んでる関東地方に近づいて大変な大雨を降らせた台風です。この時、利根川の上流の群馬県周辺で降った雨の量は、3日間で318mmでした。これは、1年に降る大体の雨の量（約1,700mm）の約2ヶ月分以上の雨が3日間で降ってしまった大雨でした。

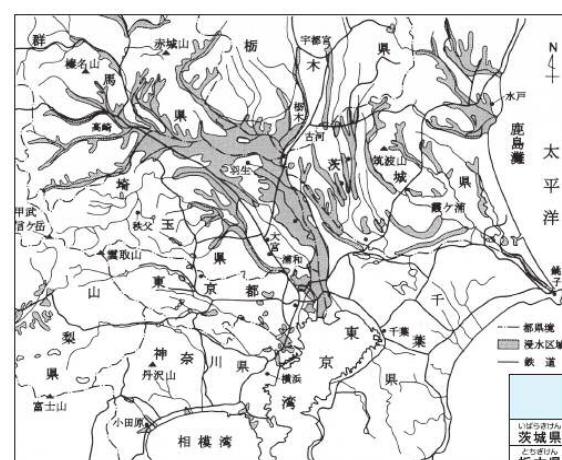
関東地方をかすめて行って、大雨を降らせたカスリーン台風

2ヶ月分の雨が3日で降った記録的大雨ってどんなにすごい雨だったんだろう。



## カスリーン台風による被害は？

カスリーン台風による記録的な大雨で、戦後（1945年8月まで、日本は、世界中の国々と戦争をしていました。）の山地の荒廃（燃料にするため木をたくさん切って山が荒れてしまふ）のせいもあって、関東地方の川では経験したことのない大洪水となりました。利根川ではいたる所で堤防が壊れ、水があふれ出し、水に浸かってしまった土地の広さは東京都全体の広さ218,800haよりも広い約230,000haにもなっていました。



※1haは、100m×100mの広さです。

利根川では支川もあわせて24か所5.9kmの堤防が決壊したんだ。



カスリーン台風による洪水で水に浸かった所（関東地方）

たくさんの家が水に浸かってしまったんだ。

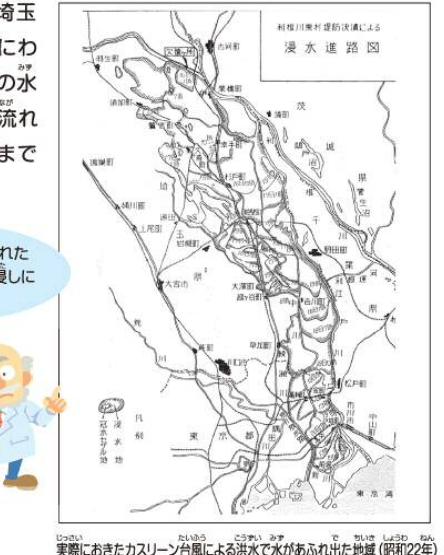
	くたった方（人）	水につかた家（戸）	壊れた家（戸）	水につかた田畠（ha）
茨城県	58	18,198	284	19,204
栃木県	352	45,642	5,917	24,402
群馬県	592	71,029	21,884	62,300
千葉県	86	78,944	3,234	66,524
東京都	4	917	6	2,010
合計	1,100	303,160	31,381	176,789

## 利根川の渦流（渦つた勢いの有る流れ）がやってきた。

カスリーン台風による大雨で、利根川では埼玉県加須市（旧東村）新川通の堤防が約350mにわたって壊れて、川の水があふれ出しました。その水は5日間かけて埼玉県の東側の平らな土地を流れ下り東京都（足立区、葛飾区及び江戸川区）まで届いて、水浸しにしてしまいました。



埼玉で1箇所堤防が壊れただけでも、東京まで水浸しになってしまうんだ。



実際にあきたカスリーン台風による洪水で水があふれた地域（昭和22年）

渡良瀬川の周辺では、埼玉県加須市（旧川辺村）の三国橋の近くで約300mにわたって堤防が壊れて渡良瀬川の水があふれ出しました。その他のにも渡良瀬遊水地の周りの堤防が12カ所も壊れて、利根川と渡良瀬川にはさまれた土地では、村全体が水没して、その水の深さは約5.5mになりました。また、その水は1ヶ月以上も引かず、逃げ出した人々は家に帰ることもできませんでした。



茨城県の坂東市（旧中川村）でも鶴戸川が利根川に合流する場所で堤防が壊れて、大きな被害を受けました。



鶴戸川の堤防が壊れた付近（茨城県坂東市（旧中川村））の被害の様子

## カスリーン台風による被害

多くの人は学校、高台にある線路や堤防などに避難し、お互いに助け合いながら避難生活を送っていました。



水に沈んだ家を見る人々 久喜市（旧栗橋町）



市街地におそいかかる渦流 足利市

避難場所で、飲み水や食べ物に困ったと言っているわ。



洪水により堤防に避難する人々



濁流に飲み込まれる町 幸手市



水没するJR東北本線（旧国鉄）



線路上に避難する人々 勝駒区

### 決壊したときのようす

渦流は東村（現加須市）から東武線の線路に沿って5kmの距離を3時間の速さで進み栗橋町（現久喜市）へ。「町では半鐘が鳴り、誰かが「水が出た」と怒鳴りながらやってきて、初めて渦流が来ることを知り、あつという間に水が増えて床上まで浸水するのをぼう然と見るままだった」という町民もいました。町民の避難は命からがらといふ状態だったのです。

この渦流は春日部、越谷などを経てさらに南下しました。車は動きが取れなくなつて放置され、線路はねじ曲がり、家は全壊や半壊、さらに床下、床上浸水などの状態となり、暮らしは大きな打撃をうけました。